

CONTENTS

● 第14回通常総会報告・新任役員挨拶・組織図・役員名簿	1・2・3
● 平成22年度事業計画（委員会活動）	4・5
● 著作権・ソフト委員会報告「初音ミク現象から学ぼう」勉強会	6
● 〈FLUZO〉システムレポート・「最低使用料」協議報告・公益法人制度改革について	7
● AMEI会員名簿・第14回通常総会議事録の開示案内	8

第14回通常総会報告



第14回通常総会が5月13日午後4時から東京飯田橋のホテルエンドモントにて開催されました。岡部比呂男会長の挨拶のあと、事務局から定足数（正会員54社に対し、出席31名、委任状22通）が発表され、総会の成立が報告されました。

定款に基づき岡部会長が議長となり、議事録署名人2名（株式会社鈴木楽器製作所 鈴木周司様、株式会社シーミュージック 三木康司様）が選任され、議案審議に移りました。

1号議案「平成21年度事業報告承認の件」、2号議案「平成21年度収支決算報告承認の件、及び監査の報告」がそれぞれ審議・承認され、3号議案「平成22年度役員選任承認の件」では、現理事及び監事の2年間の任期が満了となり、定款に基づき理事及び監事の選任を行った結果、再任理事25名、会員代表者変更に伴う新任理事として、安藤 仁様、堀主知ロバート様、の2名、再任監事2名が全員一致で承認され、出席新任理事 安藤 仁様より挨拶がありました。

通常総会はこちらで一時休会し、この間に、会長、副会長、専務理事、常務理事を互選により決定する為、選任された役員による臨時理事会が別室で開催されました。

15分の休会后、総会が再開され、臨時理事会の結果が袴運営委員長より報告され、続いて会長の再任の挨拶がありました。（内容は本誌役員名簿を参照ください）

4号議案「平成22年度事業計画（案）審議決定の件」、5号議案「平成22年度収支予算（案）審議承認の件」、6号議案「定款変更承認の件」、7号議案「公益法人制度改革への対応方針承認の件」がそれぞれ審議・承認され、近藤公孝副会長より閉会の挨拶があり、第14回通常総会は終了しました。

続いて午後6時から「通常総会懇親会」が開催され、主催者岡部会長の挨拶の後、ご来賓の経済産業省文化情報関連産業戦略調整官 木本直美様、文化庁長官官房著作権課著作物流通推進室長 川瀬 真様からのご挨拶に続いて、一般社団法人日本音楽著作権協会企画部部長 野方英樹様の乾杯のご発声により、賑やかに懇親会が始まりました。会はその後も盛り上がりましたが、袴運営委員長の中締めの後、午後8時過ぎ散会いたしました。



岡部比呂男 会長



経済産業省 木本直美様



一般社団法人日本音楽著作権協会 野方英樹様



文化庁長官官房著作権課
著作物流通推進室長
川瀬 真様



袴 運営委員長

新任役員挨拶

会長挨拶

岡部 比呂男 会長

ヤマハ株式会社 取締役 常務執行役員



去る5月13日に開催された第14回通常総会を経て、AMEIの会長を引き続き務めることとなりました。この紙面をお借りして、会員の皆様、そして経済産業省はじめ平素より当協会をご支援下さっている皆様方に厚く御礼申し上げます。

昨年の総会で加藤前会長からバトンを引き継いで、早いもので1年が経ちましたが、新しいネット端末の出現などにより、この1年間で我々の事業を取り巻く環境は今までも増して大きく変化しました。音楽を楽しむための楽器、楽譜、楽曲配信などの姿は、今後、劇的に変化していくものと推察しますが、時代のニーズに応え、変化を先取りしていくスピード感が、我々には求められていると思います。

法人制度改革の面では、AMEIとして一般社団法人への移行をめざしていくことを今回の総会で決議しました。AMEIの活動は主に会員共通の事業基盤をより確かなものにしていく「共益性」を狙ったものですが、そのもとで、各会員企業がそれぞれ顧客満足を果たしつつ成長していくことが大事だと認識しております。AMEIの諸活動に対し、今後とも変わらぬご支援・ご協力を、よろしくお願い致します。

最後になりましたが、会員各位の益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

新任理事挨拶

安藤 仁 理事

カシオ計算機株式会社 コンシューマ事業部 第四開発部 次長



AMEI会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

また平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、当協会の理事に就任させていただくこととなりました。

ここに謹んでご挨拶申し上げます。弊社は1980年に電子楽器の分野に参入し、今年でちょうど30周年を迎えました。

音楽人口拡大を掲げ、新しい楽しみ方のできる電子楽器を創造し、文化、社会に貢献できるよう取り組んで参りました。

デジタル技術により、電子楽器も進化して行く中で、AMEIの存在や役割が益々大きく、また重要になってきていると感じております。微力ではありますが、AMEIの活動を通して業界の発展、また音楽文化の発展に寄与していければと思っております。

会員の皆様のご支援、ご指導を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

堀主知口バート 理事

株式会社サイバード 代表取締役社長



AMEI会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度、理事を仰せつかることになりましたので、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

弊社は、携帯電話向けコンテンツ配信サービスを中核とし、モバイルインターネットに特化したクロスメディアソリューションの開発、およびコマースサービスの提供を行ってまいりました。音楽コンテンツに関しては、2000年の着信メロディ配信開始以来、テクノ、R&Bなどコアな音楽ファン向けに配信サービスを行ってまいりましたが、昨今、その配信ジャンルをJ-popに拡大し、さらなる事業の拡大に取り組んでおります。

AMEIの活動を通し、コンテンツホルダーの皆様、同業他社の皆様とともに音楽電子事業のさらなる環境整備、業界の発展に貢献すべく、微力ではありますが尽力いたす所存でございます。

会員の皆様のご支援、ご指導を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

新任委員長挨拶

戸田 耕二 製品安全・環境委員会委員長

ヤマハ株式会社 品質保証部 品質企画室 企画担当課長



AMEI会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度の理事会におきまして、板橋前委員長の後任として、製品安全・環境委員会委員長を務めさせて頂くことになりましたので、ここに謹んでご挨拶申し上げます。環境問題研究部会長は、引き続き兼任させていただきます。

近年、製品に係わる安全・環境の問題は、世界的に重要性を増し、各地で安全・環境に関連した法・規制・規格が新規導入されたり強化されたりしています。

当委員会では、それらの動きに対応しコンプライアンスを確保するため、世界的な製品規制・規格等の動向についての情報交換や、規制・規格内容の勉強、音楽電子機器におけるガイドラインの検討などをさらに積極的に行ってまいります。

AMEIにおいてハードウェア製品＝音楽電子機器を扱っている会員は多くはありませんが、音楽電子製品の安全・環境における社会的責任を全うし、業界の発展に貢献できるよう、委員会会員のご協力のもとに当委員会を運営していく所存です。

今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

石黒 士郎 広報委員長

カシオ計算機株式会社 コンシューマ事業部 第四開発部
第40開発室 副主管 チーフエンジニア



AMEI会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、広報委員長に就任させて頂くこととなりましたので、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

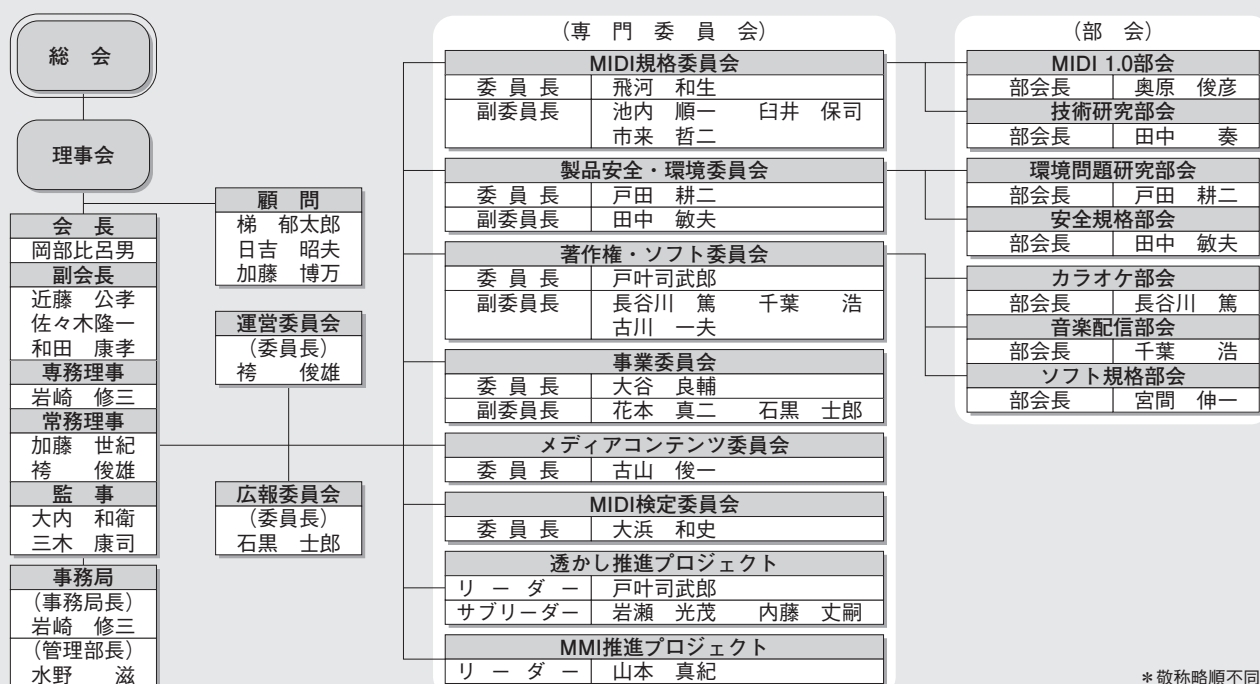
広報委員会はAMEIの存在意義を広く外部にアピールすると共に、会員の皆様への適切な情報発信を適宜行うことにより 協会活動を側面から支援することを使命としております。

この広報活動を通じまして 会員の皆様の現行のビジネスの活性化、また将来へ向けた新しい発想の発見やマーケットの創造へとつながる一助となれましたら幸いと考えております。

リーマンショック以来の世界的金融不安など企業をとりまく厳しい環境もございますが、このような時節においても、次世代のために夢の電子楽器の技術や楽しいコンテンツの新しい芽を育てておくことを忘れずに活動してゆければと感じております。

AMEI会員の皆様のご支援と事務局のお力添えを頂きながら、微力ではございますが、業界の発展のお役に立てますよう努力して参りたいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

社団法人 音楽電子事業協会 平成22年度組織図



* 敬称略順不同

社団法人 音楽電子事業協会 平成22年度役員名簿

★：新任役員

会 長	岡部比呂男	ヤマハ株式会社 取締役常務執行役員	〃	島村 元紹	島村楽器株式会社 代表取締役社長
副 会 長	近藤 公孝	ローランド株式会社 常務取締役	〃	鈴木 周司	株式会社鈴木楽器製作所 専務取締役
〃	佐々木隆一	株式会社エムティーアイ 取締役	〃	瀧田 和伸	株式会社セガ ネットワーク事業部
〃	和田 康孝	株式会社第一興商 常務取締役	〃	谷口 恵治	株式会社ヤマハミュージックメディア
専務理事	岩崎 修三	兼上席執行役員	〃	英 裕治	代表取締役社長
常務理事	加藤 世紀	社団法人音楽電子事業協会 事務局長	〃	飛河 和生	ティアック株式会社 代表取締役社長
〃	袴 俊雄	株式会社コルグ 代表取締役社長	〃	村上 二郎	クリムゾンテクノロジー株式会社
理 事	Ann Rollins	JVCネットワークス株式会社 取締役	〃	村上 昇	代表取締役社長
〃	赤松 憲樹	アップルジャパン株式会社 政策企画部長	〃	吉田 篤司	株式会社河合楽器製作所
★	安藤 仁	学校法人尚美学園 顧問	〃	吉田 眞市	執行役員電子楽器事業部長
〃	飯村 康弘	カシオ計算機コンシューマ事業部	〃	大内 和衛	株式会社インターネット 代表取締役
〃	大野 政昭	第四開発部 次長	〃	三木 康司	株式会社エクシング 代表取締役社長
〃	大浜 和史	学校法人片柳学園 日本工学院 キャリア	監 事	〃	株式会社フェイス・ワンダワークス
〃	踊 契三	サポートセンター センター長	〃	〃	代表取締役
〃	加茂 正治	株式会社サミーネットワークス	〃	〃	株式会社キューブ 代表取締役社長
★	堀主知ロバート	代表取締役社長	顧 問	〃	株式会社シーミュージック
〃	小林 宏	日本シンセサイザープログラマー協会	〃	〃	代表取締役社長
		理事長		〃	ローランド株式会社特別顧問
		株式会社フェイス 取締役			
		株式会社BMB 代表取締役社長			
		株式会社サイバード 代表取締役社長			
		株式会社ドワンゴ 代表取締役社長			

(常勤役員は専務理事のみ、他の役員は非常勤です。)

平成22年度事業計画（委員会活動）

（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）

1 全 体

運営委員会に設置した公益法人制度改革対応WGにて一般社団法人移行対応のための研究を引き続き継続する。尚、以下各委員会活動は、定款（事業）第4条の各項に準ずるものとする。

2 製品安全・環境委員会

<活動方針>

電子・電気楽器及び関連機器の安全性・環境性能の向上を両軸とした技術、法律、規格要求に関する諸問題の調査研究を2つの専門部会が主体性をもって推進することにより、会員各社の専門知識、技術の習得とあわせて、市場における製品の安全性や信頼性の向上を目指す。

そのため2つの専門部会は、電子電気楽器及び関連機器に関し、安全及び環境に関する技術、規格・規制等の動向や情報を把握するだけでなく、両部会間での情報交換、法規制からの要求事項に対する解釈のレベル合わせの為に活動を継続し、電子・電気楽器及び関連機器の安全性確保・環境問題への対応についてさらなる推進を図る。

<事業計画>

安全規格部会

1. 「安全規格について」
電気用品安全法の動向調査（PL関連情報の提供と交換を含む）
2. 「EMCについて」
各国規制動向調査
CISPRマルチメディア国際規格策定への参画
3. 「その他」
技術向上 試験所解釈集勉強会 CTL Decision（前期からの継続）
電気用品安全法自主依頼試験の実施

環境問題研究部会

1. 国内外の環境に関する法・規制等の動向調査及び情報交換
2. 各社の法・規制対応に関する意見交換等の実施
3. グリーン調達調査共通化協議会（JGPSSI）への参画
4. 環境法規制に関する情報共有化セミナーの実施（9月頃）
RoHS規制の改訂要点について実施を検討

3 MIDI規格委員会

<活動方針>

1. 新しい市場創造に向けたテーマの推進と将来の音楽事業発展への貢献
2. AMEI入会メリットの向上：特許などの誓約書の範囲の拡充

3. AMEIアイテム管理体制の継続構築
4. ホームページを通じたMIDI管理団体としての外部アピール

<事業計画>

MIDI1.0部会

1. RP・C/Aの提案を受けて、年間1～4回の部会開催。
2. MIDI Visual Control案は、年度前半の成立を目指す。
3. MMI推進プロジェクト提案を受け、RPを制定。

技術研究部会

1. 隔月開催、年間6回開催。その他MMAのHD-WGとの合同会議を開催。
2. 新技術・新商品の評価、検討を通して音楽業界のニーズを模索する。
3. USB3.0、AVB、RTP、ワイヤレス等、シリアル通信以外の伝送路におけるMIDIの評価、検討。
4. HDプロトコルに関する技術リサーチ。

NAMM2011ビジネスツアーの実施

MMA HD-WGとの合同会議を2011年NAMMにて開催予定。

4 MMI推進プロジェクト

<活動方針>

MMI推進プロジェクトはMMI規格QWERTY対応版のRP化成立を持って終了する。

<事業計画>

RP化に当たってMMAから意見が出た場合はAMEI側の意見を集約し議論する。

5 著作権・ソフト委員会

<活動方針>

1. 著作権等管理事業法の制定に伴い発生した問題点等を解決すべく関係団体と協力し文化庁に対する活動を活発に行う。又、様々な変化の中で新しい問題に対し制度疲弊を起こしていると考えられる部分に対しては、関係省庁、管理事業者等に積極的に発信していく。
2. 定例会を通じ各部会の取り組み課題、管理事業者との協議状況をタイムリーに情報提供、又会員の意見を吸収し部会活動に反映させることにより活発な活動にする。

<事業計画>

カラオケ部会

1. JASRACと「業務用通信カラオケ」使用料の按分に関して協議。
2. イーライセンス社と「業務用通信カラオケ」規定について協議再開。

- 3.「カラオケに係わる音楽著作権に関する情報交換会」への積極的な参加。
- 4.著作権等管理事業法検討会にて文化庁への意見書案の作成。
- 5.カラオケ端末機器を使用し新たに作成されたコンテンツの他メディアへの流用に関する権利処理の勉強会開催。

音楽配信部会

- 1.音楽配信に関わる問題点の情報交換・意見交換を定例会の場にて実施すると共にNMRCを通じて管理事業者との協議、関連団体との意見交換に反映させる。
- 2.実務上の問題点解決に向け、NMRC実務WG及びNMRC拡大実務WGを通じ管理事業者、関連団体との協議、意見交換を行う。

ソフト規格部会

- 1.音色データ等の不正使用の監視と実態の把握。必要に応じ警告等によるアクションの検討～実施。警告手順等のアーカイブ蓄積。
- 2.統一見解書に基づき、楽器内蔵コンテンツの法的保護に関する啓蒙活動推進。
- 3.知的財産情報の共有・・・勉強会、情報交換、専用Webページ等の活用。

NMRC-DMN関連

- JASRACでの許諾レパートリー拡大に関するAMEI会員の意見集約、情報共有などをメーリングリスト・ミーティングで随時実施。

平成22年度AMEI著作権・ソフト委員会定例会開催スケジュール

第 回	開催予定日	開催時間	備 考
1	平成22年 4月 8日	13:30～15:00	
2	平成22年 5月20日	13:30～15:00	
3	平成22年 6月10日	13:30～15:00	
4	平成22年 7月 8日	13:30～15:00	
5	平成22年 9月 9日	13:30～15:00	
6	平成22年10月14日	13:30～15:00	
7	平成22年11月11日	13:30～15:00	
8	平成22年12月 9日	15:30～17:00	恒例忘年会
9	平成23年 2月10日	13:30～15:00	
10	平成23年 3月10日	13:30～15:00	

*原則として、毎月第2木曜日、但し5月はAMEI総会と重なる為、第三木曜日とする。

*8月及び1月は開催しない。

*会場は、神保町岩波セミナールーム。

6 透かし推進プロジェクト

AMEIが提供する「標準MIDI電子透かし」(第一層)埋め込みツールであるMIDIsignを用いて会員企業がISMC規格を利用するように促進し、MIDIデータ作成販売におけるDRM(電子的権利保護)の仕組みを構築する。共通透かしの利用によりデータの違法複製抑止、ならびに権利者からの円滑な許諾を獲得して業界の発展に貢献する。

プロジェクトの発展的解消と、著作権またはMIDI委員会帰属の「透かし部会」設置を検討。

7 メディアコンテンツ委員会

事業委員会などと連携しながら、「映像を含むメディア関連セミナー」「小型レコーダーによる音楽演奏録音セミナー」などを企画、実施する。

8 MIDI検定委員会

<活動方針>

MIDI検定1級を頂点としたMIDI教育システムによるMIDI学習の普及。

デジタルレコーディング、ボーカロイドを含めたミュージックメディア入門の拡大。

MIDI検定セミナーを実施し受験者の拡大を図る。

<事業計画>

1. 検定試験

第13回MIDI検定試験3級、第12回2級筆記試験
平成22年12月5日(日)

第12回2級実技試験 平成23年2月 東京、大阪会場

第2回1級試験 平成23年1月

4級認定講座：随時

中国に於けるMIDI検定試験の継続

2. 指導者認定講座

4～8月 指導者セミナー(4,3,2級)の実施(東京、大阪)

9 事業委員会

JSPAとの共催、「2010Synthesizer Festa」実施し、MIDIの普及MIDI検定の認知向上と普及に結び付ける。

その他会員メリットに繋がるセミナー・イベントの企画・実施。

10 広報委員会

<活動方針>

外部に対する情報発信機能を充実し、当協会の存在意義を広くアピールすると共に、会員に対する情報提供機能の充実により会員の連帯感を強め、社団法人としての当協会の積極的な活動を側面からサポートする。

<事業計画>

1. 会報「AMEI News」の発行

定期会報：年3回発行(4月、7月、11月)

2. ホームページの充実(事務局との連携により推進)

3. ホームページのサーバー等含めセキュリティ強化検討(事務局との連携により推進)

「初音ミク現象から学ぼう」勉強会実施報告

ソフト規格部会長 宮間 伸一

去る6月18日(金)PM1:00、神保町岩波セミナールームにて、「初音ミク現象から学ぼう」と題し、標記部会主催の勉強会が開催されました。本勉強会は、話題の「初音ミク」に焦点を絞り、そのキャラクタ、歌声、及びこの二つの要素を合成した成果物（創作物）を取り巻く、知財権／ライセンスの態様を研究、把握することによって、そこに生じる問題点を整理すること、さらに参加者にはここで得た情報、知識をもとに、新たなビジネス形態の可能性を模索していただくことをねらいとしました。

当初、参加者は20名程度と見込んでいたところ、予想をはるかに超え、その三倍の60名が当日の会場を埋め尽くしました。

開会に先立ち、AMEI事務局の岩崎修三 専務理事、宮間の挨拶が行われた後、予め提起した4つのテーマに従って各講師が講演する形式で、ソフト規格部会 三澤洋一副部会長の司会のもと勉強会が開始されました。

講演（1）では、「Vocaloidの概要説明」と題し、ヤマハ（株）研究開発センターの木村義一氏より、初音ミクのエンジンであるVocaloidの歌唱合成方式や、歌声を再生する上での開発の工夫等について、実演を交えながらわかりやすく解説していただき、さらに同社が考えるこの合成方式の将来性とその応用について紹介がありました。

講演（2）では、本勉強会の主題でもある「初音ミク現象」について、クリプトン・フューチャー・メディア（株）代表取締役の伊藤博之氏より幅広い解説がありました。説明は、初音ミクの原点であるバーチャルインストゥルメント（仮想楽器）の歴史から入り、初音ミクの開発～発売に至る経緯、それに連動した市場の反応・発見と事業対応等、初音ミクの成長過程が手に取るようにわかる話題が続いた後、本題の法務論へと移りました。ここでは、①語学等、公共性を有するインターフェイスと著作権法に準じ許諾が必要な著作物との相違点、②原則使用OKの事例とライセンスの必要な著作物類型、③「ピアプロキャラクタライセンス（PCL）」の概要と判定例、④権利の分散化、創作の多様化・高度化に伴い複雑化したN次創作物と商用利用上の諸注意など、きめ細かな説明がなされました。

講演（3）では、業界に波紋を投げかけた「白いクスリ事案」を取り上げ、ヤマハ（株）法務・知的財産部の斎藤誠氏より、本事案の経緯、事実関係、当事者の動向、権利上の解釈、秩序、道義的な問題、キャラクターのイメージ保護の観点等の解説がなされ、さらにこの投稿作品に対する本勉強会参加者の印象等、意見聴取を交えての講義が行われました。

講義（4）では、「ゲームにおけるユーザー創作物の権利」と題し、ヤマハ（株）法務・知的財産部の小谷雅樹氏より、ユーザーが創作した著作物（UGC（user-generated content））を使用するネットゲームについて、事例紹介、権利の分散化、権利構造、知財権に対抗するフェアユースや言論／表現の自由、米国著作権上の解釈、ライセンスと契約法等々、米国ワシントン大学ロースクールで同講師が学んだ豊富な知識・経験をもとに、高度な解説がなされました。米国における著作物事例とその先進的な解釈論は、追々日本国内にも応用される可能性が高いと考えられます。

勉強会の最後には、三澤副部会長により論点整理が行われ、次回予定される第二回勉強会への布石が打たれ、定刻通りPM4:30に閉会しました。



開会の挨拶をする宮間 ソフト規格部会長



（左）ソフト規格部会 三澤副部会長
（中央）クリプトン・フューチャー・メディア（株）代表取締役 伊藤 博之氏
（右）ヤマハ（株）研究開発センター 木村 義一氏



ヤマハ（株）法務・知的財産部 小谷 雅樹氏/斎藤 誠氏

著作権管理事業者への利用曲目報告の一括処理が始まりました

一般社団法人 著作権情報集中処理機構 千葉 浩

一般社団法人著作権情報集中処理機構（以下「CDC」）は、音楽配信分野の著作権の円滑な処理を推進するための共通インフラとして、基幹業務システム「Fluzo（フルゾ）」を開発し、2010年4月よりフィンガープリント（以下「FP」）を活用した権利問合せ機能のサービスを提供して参りました。

「Fluzo」は、①管理楽曲の統合データベース、②FP検索、③利用曲目報告の一括処理の三つの機能を柱として構築されていますが、この度、既に利用されている統合データベース機能及びFP検索機能に加え、利用曲目報告一括処理機能も7月にサービスインし、「Fluzo」で処理を行ったデータを基にした著作権管理事業者への利用曲目報告（4月～6月利用分）が開始されました。

音楽配信事業者は、原則として、配信した全曲目のリストをサービス毎・月毎に集計し3カ月に一度の頻度で各著作権管理事業者に報告する義務があります。従来、この著作権管理事業者への報告には、各著作権管理事業者が楽曲毎に設定している作品コードを予め特定し、それぞれの楽曲を管理している著作権管理事業者別にデータを振り分ける必要がありました。これに対し「Fluzo」の利用曲目報告一括処理では、音楽配信事業者は共通の作品コード（「CDC-ID」）のみを取得し、CDC-IDとともに利用報告データを「Fluzo」に送信するだけで、各著作権管理事業者への振り分けや作品コード及び報告フォーマットの変換等は「Fluzo」が自動的に行うこととなります。

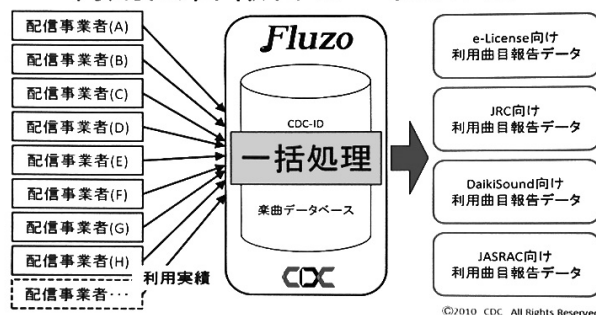
「Fluzo」をご利用いただくことにより、利用曲目報

告に要する作業が大幅に簡素化されるとともに、著作権管理事業者間の管理楽曲の移動にも確実に対応することが可能となり、誤報告や報告漏れ（未許諾を含む）を回避し、より精度の高い報告が実現します。

7月の利用曲目報告一括処理機能のサービスインにより、当初予定されていたFluzoの全ての機能が実稼働する運びとなりましたが、これもひとえにAMEI会員企業様をはじめ関係各位のご理解・ご協力の賜物と深く感謝いたしております。

今後の音楽配信事業の発展にとって、著作権処理にかかる膨大な費用と時間の低減が急務となっていますが、その解決策として「Fluzo」の利活用を促進し、その利用が音楽配信における著作権処理の標準となるべく、今後も積極的な活動を進めていく所存ですので、AMEI会員企業様におかれましても、より一層のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

利用曲目報告の一括処理



「最低使用料」の取り扱いについてJASRAC及びイーライセンスと合意

NMRC（ネットワーク音楽著作権連絡協議会）では、昨年夏より「最低使用料」の取り扱いについてJASRAC及びイーライセンスと協議を継続してきましたが、6月28日のJASRACとの協議、6月29日のイーライセンスとの協議におきまして合意に至りました。

いずれの管理事業者とも、規程の改定は行わずに運用において利用者の支払いが減額となるような措置となります。

JASRACの場合は1ホームページ内の着信音の許諾を1本化して取り扱うという形になります。イーライセンスにつきましては、同一サービスにおいて利用形態が同じ許諾をキャリアで統合した形にて取り扱うということになりました。

実務的な運用ルール、手法については引き続き協議となりますが、決定次第CPの皆様にご案内をいたします。又、上記管理事業者との合意をうけてJRCとの協議を開始する予定です。

「公益法人制度改革対応について」一般社団法人への移行までの準備に関して

5月13日の総会において当協会は一般社団法人へ移行する旨の決議をしました。

新制度の一般社団法人に移行するには、以下の2つの基準を満たしている必要があります。

(1) 定款変更

定款変更の案の内容が法人法及び命令の規定に適合するものであること。

(2) 公益目的支出計画

公益目的支出計画が適法であり、かつ、確実に実施すると見込まれるものであること。

*公益目的支出計画とは、移行認可を申請する特例民法法人（現在のAMEIは特例民法法人となっています。）の移行時の純資産額を基礎に算定した公益目的財産額に相当する金額を公益の目的のために支出していく計画です。

今期、運営委員会の公益法人制度改革対応WGでは、上記の研究に取り組んでいく予定です。

会員名簿

50音順 2010年7月10日現在

あ

- アイデックス音楽総研株式会社
- アップルジャパン株式会社

い

- 株式会社インターネット
- インフォコム株式会社

え

- 株式会社エクシング
- 株式会社エムティーアイ
- 株式会社エンターブレイン

お

- 株式会社音響総合研究所

か

- カシオ計算機株式会社
- 株式会社河合楽器製作所

き

- 株式会社キューブ

く

- クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
- クリムゾンテクノロジー株式会社

こ

- 株式会社コルグ

さ

- 株式会社サイバード
- 株式会社サミーネットワークス

し

- 株式会社シーミュージック
- JVCネットワークス株式会社
- 島村楽器株式会社

- 学校法人尚美学園

- 株式会社シンクパワー

す

- 株式会社ズーム
- 株式会社鈴木楽器製作所
- 株式会社スリック

せ

- セイコーインスツル株式会社
- 株式会社セガ

た

- 株式会社第一興商
- 株式会社タムラ製作所

て

- ティアック株式会社
- 株式会社ディーアンドエムホールディングス
プロフェッショナル・ビジネス・カンパニー

と

- 東映ビデオ株式会社
- 有限会社トゥロッシュ
- 株式会社ドワンゴ

に

- 学校法人片柳学園 日本工学院専門学校 /
日本工学院八王子専門学校
- 日本シンセサイザープログラマー協会

は

- パイオニア株式会社
- 株式会社ハドソン
- パナソニック モバイル コミュニケーションズ
株式会社

ふ

- 株式会社フェイス
- 株式会社フェイス・ワンダワークス
- 株式会社フォーサイド・ドット・コム
- フォスター電機株式会社 フォステクスカンパニー
- 株式会社フットレック

へ

- ベスタクス株式会社

み

- ミュージックノート株式会社

や

- ヤマハ株式会社
- 財団法人ヤマハ音楽振興会
- ヤマハミュージックトレーディング株式会社
- 株式会社ヤマハミュージックメディア

ら

- 株式会社ラグナヒルズ

り

- 株式会社リットーミュージック
- 株式会社リムショット

ろ

- ローランド株式会社
- 〈正会員会社53社〉

*賛助会員

- 中音公司 (中華人民共和国)
- 株式会社博秀工芸
- 株式会社ミュージックトレード社
〈賛助会員会社3社〉

第14回通常総会議事録の開示について

下記のAMEIホームページでご覧いただけます。

AMEIホームページ <http://www.amei.or.jp/> の会員専用ページ

会員専用ページへのアクセスはID及びパスワードの入力が必要です。

お忘れの方はE-mailにて

- 送付先: webmaster@amei.or.jp
- メールのSubject(件名)に AMEI member HP registration(半角文字)と記入の上、
本文にお名前、E-mailアドレス、会社名、所属、TEL、FAXを記入の上、お申込み下さい。

経済産業省では、 「製品安全対策優良企業」を 表彰しています。

今年で第4回を迎える製品安全対策優良企業表彰は、
表彰を通じて製品安全に対する意識を高め、安全・安心
な社会を目指そうという取り組みです。

<http://www.ps-award.jp>



音楽を楽しみ、創る ミュージックメディアの祭典

Synthesizer Festa 2010

10月9日・10日
西新宿 芸能花伝舎 創造スペース

入場無料

第9回目となる今年のフェスタ会場は芸
能花伝舎を予定しています。
芸能花伝舎は新宿区と芸協が文化協
定を結び運営している芸能拠点です。
研修施設をフルに活用した電子楽器と
音楽に親しむイベント、セミナー、ライブ
コンサートを計画しています。



主催・運営
日本シンセサイザー・プログラマー協会
JAPAN SYNTHESIZER PROGRAMMER ASSOCIATION
TEL: 03-5464-2514 E-mail: mail@jspa.gr.jp

AMEI NEWS Vol.42 / 2010.7.10

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行: 社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F

TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人: 岩崎修三

編集人: 石黒士郎 (広報委員会)

編集協力: 株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス: <http://www.amei.or.jp/>